

社団法人つくば青年会議所理事長所信

【スローガン】

感謝の心が溢れるつくば

～温故知新！「自立」と「共助」が調和する J A Y C E E～

第30代理事長 木村英博

2011年3月11日14時46分に東日本大震災が発生した。かつて経験のない未曾有の大災害で死者・行方不明者の数は20,000名を超え、わが国は海外メディアから絶望視されたのです。尊い命が奪われたその中に、同じ志を持つ J A Y C E E メンバーも居ります。犠牲に遭われた方々に衷心より哀悼の意を表し、心からお見舞い申し上げます。

私自身も多くの親戚や友人を亡くしました。生まれ育った実家のある宮城の街では学校や家、様々なものが津波による甚大な被害を受けました。そして我街つくばも震災や風評被害で甚大な被害を受けており30周年を迎えるつくば J C は大きな岐路に立っているのです。

【はじめに ～一蓮托生で新たなる飛躍へ～】

東日本大震災はわが国の歴史に永遠に刻みつけられる大災害でした。震源地から遠く離れたつくばの地でも震度6弱の被害に遭い、メディアから流れる悲惨な光景の被害状況を前に絶望的な感情に押し潰されそうになった事をはっきり覚えています。地震発生後から直に行った仲間との安否確認のやり取りのなかで、自分が今、生きていることの喜びと生かされていることへの感謝の気持ちを心底実感いたしました。そのような凄まじい状況下にあっても震災直後から被害者の救出、被災地の救援の為に、日本全国各地から組織の垣根を越えて被災地に向かう様々な人の姿に我を取り戻し、自分にも何か出来ると勇気をいただき動き出すことになるのです。そこでは被災地でもあるつくば市民や行政、そして J A Y C E E が原子力発電所の事故により避難を余儀なくされた他人の役に立つために本気で行動を起こしていたのです。他が為に、人々が強い心で行動するチカラは、人が発揮する1番のチカラなのです。その勇姿を目の当たりにして、つくばは必ず復興するし日本が大丈夫だと確信いたしました。これはつくば J C の先輩諸兄が積み上げてきた歴史そのものであり、つくば市民の強いアイデンティティだと感じたのです。そこでリーダーシップを発揮していたのは、自らを律して「自立」しながらも互いに助け合える「共助」をもって行動する利他の心を持った J A Y C E E であります。自分を犠牲にしても人の事を思いやれる人たちが、地域に根差したリーダーとして行動していたのです。そんな素敵な仲間と共に30周年を向かえ発展し続けている組織に身を置くという貴重な経験をさせていただいていることに感謝したいと思います。本年は感謝の心をもって、30周年という節目を祝い、故きを温ねて新らしきを知る「温故知新」の精神で新たなる飛躍へ向けて一蓮托生であらゆる物事に果敢に挑んで参りましょう。

【会員の育成・拡大～多種多様で変化に強い組織を創る～】

変化に次ぐ変化の時代でわが街つくばも30年前に比べると大きく変化しているのは勿論、ここ数年で飛躍的に大きい変化を見せています。街の様相が変化していると共に、そこで住み暮らし生活している人も千差万別です。そんな中、全体的に見ればつくば市民の人口も変化している街の恩恵を受け増加傾向にあります。つくばJ Cも近年会員の拡大に成功してきたといえます。人と人が出会う「縁」も多くあるという事です。こんなに多く集まってきているメンバーの育成を蔑ろにしてはいけないし、メンバーの育成にこそ、チカラを入れていかなければならないと思うのです。こんな恵まれた地の利に心から感謝すべきです。しかし、ダーウィンの言葉にこんな言葉があります。「最も強い者が生き残るのではなく、最も賢い者が生き延びるのでもない。唯一生き残るのは変化出来る者である」これは組織でも同じであると思います。多種多様の職業を持つJAYCEEメンバーが多く集まり運動を力強く発信できているのは個人のスキルが高いこともあるが、変化に対応できるメンバーが数多く在籍しているからなのです。事業を行う時に広く市民に呼びかけ賛同していただき、街を良い方向に大きく変化させていくリーダーとなり得る組織の数のチカラは重要なのです。そして将来を考えて今後は特に女性が参画しやすい環境作りを視野に入れて活動して欲しいです。また、つくばJ Cの中に女性メンバーを増やしていきたいのです。これは環境が変わった時に一種類しかなければ全滅してしまうが、様々な種類があれば生き残る種類があるのと同様で、多種多様であるということは安全保障であり組織の強さとなるのです。多種多様である仲間が同じ志でチカラを合わせ、運動を進めることほど安全で強固なものはないのです。

【30周年を祝う～節目の年を大切に～】

歴年の輝かしい功績に感謝して今後も飛躍していく組織としての30周年を心から多くの同志と共に祝いたいです。日本青年会議所で708番目の認証番号である、つくばJ Cが素敵な仲間と共に発展し続けて、活躍出来ているのは29年間を培ってきてくれた先輩諸兄がいるからです。先輩諸兄から受けた恩を先輩に返すのではなく、未来を託す後輩に恩送りをしなさいと私は教わりました。先輩から受けたバトンをしっかり組織の中で受け継いで参ります。物事に果敢に挑むときの前提には、過去にとらわれ過ぎないことだと言われ、私もそう思いますが、過去を知らずして前に進むことは間違っています。まずは青年会議所の歴史を振り返り過去に学ぶところから始め、新たなる飛躍へ向けて確かな一歩を踏み出したいのです。つくばJ Cの先輩方は現役を温かく見守る慣習が強く、つまらない柵はないと感じています。そんな誇りある組織が設立から30年の時を刻もうとしています。人生においても組織においても節目というのは大切に意味のあるものです。竹が天高く伸びるのは、節目がしっかりしているのと同様に、つくばJ Cが今後、天高く飛躍できるかどうかは、30周年の本年にあると考えます。天の時である30周年を大切に、楽しみながら盛大に祝い、共に歴史を噛み締めて歩んで参りましょう。

【街づくり～地域全体最適化～】

地域の信頼や規範から成り立つ人間関係の繋がりと、あらゆる地域資源の有機的な結びつきを基軸にして新たに生まれた事業、地域の文化を学び、そして地域に根ざした持続的な社会貢献によって街は活性化を進めます。地域力再生の鍵は地域全体を見渡せる目線にあり、地域経済の担い手である中小企業の再興が地域の自立には欠かせません。地域経済を強化し、市民が主体的に地域にかかわり自立した街が、地域間や市民相互で日常的に助け合うことができる成熟した社会を目指します。本年も引き続き、あらゆる組織の垣根を越えて連携して事業を行っていきたいと考えます。自分たちの住み暮らす街の環境を美化していく運動も我々がリーダーとなり、あらゆる手法を模索し考えて行っていかなくてはなりません。平凡な事を継続し続けることは非凡になり大きいチカラになることを知って欲しいです。そして、どんな地域にも文化があり地域のブランディングを構築していくことは街を元気にしていくために必要なものなのです。地域で誇れるものを共有し発信していき、多くの人に伝播していきたいのです。特に震災における食文化の風評被害が少なからず蔓延している現状を鑑みると、ここにチカラを注ぎ事業を展開していきたいと考えます。悪い風評ではなく良い評判をこの地域から強く発信していき街を元気にしていきたいです。また、歴史あるつくばの未来を担う青少年の育成も積極的に行っていきたいと思います。子ども達が夢を持てる環境と地域を愛する郷土愛と、すべての物事に感謝する心を育てていただきたいのです。家族間や友人とのコミュニケーションが取れていないのは子どもたちが育つ環境が良くないのだと感じます。子どもは生まれ育つ環境を選択することは出来ません。しかし、生まれ育った環境を私たち大人の手で良くしていくことは出来るのです。地域に住む子ども達をごく当たり前で社会全体で守り、企業も地域愛溢れた理念を掲げ、働く人たち全員が笑顔で働いて欲しいのです。また、そこでは自治体改革が進み、地域住民と協同で真の「自立」した街づくりが企画遂行され、地域の魅力を最大限に生かした、感謝の心溢れる地域全体最適化が実現していくのです。

【人づくり～純粋な正義感が街を変える～】

社会の中であなたのチカラで出来ることは溢れています。市民が意欲的に社会参画することが可能な社会を創造するために市民の意識を刺激し、これまでの運動の主軸として取り組んできた人づくりを引き続き重要課題とします。自らを律し、そして他が為に行動する精神、その様な純粋な正義感が溢れる人づくり運動を継続事業の中で展開します。人と人が互いに支え合う人の和があり、つくば市民としての誇りを持つ事で、「自立」した人たちが溢れます。その人たちはつくば市民としての強いアイデンティティを持ち、絆の大切さを理解していると言えます。JACYEEが中心となり市民が参画出来る継続事業を「共助」を持って強く発信していただきたい。つくばの街には他に誇れるものが沢山あります。地域のたからは、つくば市民の精神性は勿論、霊峰筑波山、つくばエクスプレス、豊富な農作物、サイエンスシティ等多くありますが、本年は筑波山と市の中心であるつく

ば駅を特に活性化させていきたいと思っております。継続事業にはつくばJ C 30周年の節目を大切にしたい思いから30周年の冠を付けて行います。創始の心を大切にしながらも、これからの光り輝く未来をしっかりと描きながら、多くの市民を巻き込み盛大に事業を実施して、3つの看板事業を昇華させていくと共に、将来を背負って立つ人材を育てていきたいのです。つくば市民が心から笑顔になれて、心豊かな街で誇りを持って住み暮らして欲しいのです。また、つくばのたから霊峰筑波山とつくば市で最も人が多く集まるつくば駅を舞台に、より活性化させるつくばの人づくり事業を開催します。そしてこの強い精神性を、このつくばの地域から世界にも伝播していきたいと思っております。つくばJ Cメンバーには常に視野は広く大きく持って欲しいのです。ASPAC誘致を総会決議しているLOMとして国際事業にも積極的に参画して参ります。

【組織の要～公益性と透明性の優れた組織運営～】

公益社団法人格を取得する方向性を総会決議していることを踏まえて、今回の法人格移行を単なる法人格の名称変更と捉えず、組織の根幹を真摯に再構築する機会を得たと認識しなければなりません。情報共有と共通認識を明確にして諸事業を進めてまいります。また財政面から厳正に事業を審査することで社会の付託に応え得る組織運営を再構築いたします。メンバーの大切な会費や様々な方からのお金を1円でも無駄に使うことなく、費用対効果と相対支出を考えてあらゆる工夫と手法を取り入れて、会計基準と照らし合わせながら検証し実施していきたいと考えております。一方でディスクロージャーを実施することなどにより、公益性と透明性の優れた組織の実現をします。また近年のソーシャルメディアマーケティングが注目されていることを踏まえホームページを有効に活用していくことと、SNSやブログ・メルマガなどを良きツールとして利用し情報発信していくことが重要になっていきます。また双方向からコミュニケーションを図り市民一人ひとりの声がフィルターを介さずにダイレクトに吸い上げられるシステムを活かし、より良い事業を展開することでつくばJ Cの価値を高めることが出来るのです。そして、日本青年会議所・地区協議会・ブロック協議会に強くコミットしていくことで、つくばJ Cからの運動発信を強化すると共に本会の運動を理解し、連携・推進していくのが今後の飛躍へ向けた流れです。互いを理解する為には、情報の共有化や、同じ目的の達成感が必要だということです。同じJ C宣言・綱領を唱える仲間ですから、日本J CとLOMの関係は、同じ立ち位置で考えられる同士であるべきだと考えます。そんなJ Cが一枚岩で強い運動発信が出来ることは素晴らしいことだと思うのです。特に30周年を迎えるつくばJ Cを共に祝ってくれる同志を迎えるLOMとして、渉外の対応も本年は強化します。そして組織の要である理事は勿論、事務方はメンバーの手本となるリーダーでなければならないと私は思っています。マイナスのことを一切考えず、文句も口に出さない、そして前向きで責任感と決断力を兼ね備え正義感を持って行動するのです。また、いつも笑顔でみんなの意見を吸い上げて組織運営を考えながらメンバーにとっても気を使わなければならないのです。「やっ

みせて、言って聞かせて、させてみて、褒めてやらねば人は動かじ」山本五十六の言葉を実践しているチームを創造します。

【おわりに～人間万事塞翁が馬～】

「人間万事塞翁が馬」これは私の座右の銘です。日本を変えた歴史的な震災が起きて様々なことが起こっています。その時は悪いと思うことも長い歴史から見るとよいターニングポイントになっていることがあるのです。震災で尊い命を落とした人の為にも大きい岐路に立っているつくばJCは、前向きに運動発信し「明るい豊かな街づくり」の実現に向けて行動していかなくてはなりません。この組織が30周年を境に、更にチカラ強く歩み出す為にも、つくばJCメンバーがすべての物事に感謝することからスタートします。そしてJAYCEEが利他の心を持って「自立」と「共助」の調和する組織となり、活気に満ち溢れ、市民に必要とされ役に立つ事が大切なのだと思うのです。高い志の基、集まった同士が同じ時間を共有し、共に語り、学び、修練することで己を磨き上げ自立しながらも、各事業を共に行う「共助」の精神で愛するつくばの街づくりに寄与し、結果として、組織の更なる向上と強い団結・友情が育まれるのです。そんな社会を作り上げるリーダーとして、愛するつくばと街に住み暮らす市民の為に共に感謝の心を持って確かな一歩を踏み出しましょう。